



TOHOKU EPO通信

[エポ]
東北環境パートナーシップオフィス



vol. 20



2014.11.10～12「ESDに関するユネスコ世界会議」閉会全体会合「ESDあいち・なごや子ども会議」代表によるメッセージ

Contents

※ EPO東北の取組について

ESDに関するユネスコ世界会議
開催地：岡山市、名古屋市

※ ECO&復興支援グッズ

※ 東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

ESD に関するユネスコ世界会議

開催地：岡山市、名古屋市

「国連ESDの10年」のしめくりの年である2014年に、世界各国で取り組まれてきたESD活動の成果を共有し、2015年以降の活動について話し合う世界会議が開催されました。

岡山

11/4～11/8
ステークホルダーの主たる会合

- グローバルRCE会議
- ユネスコスクール世界大会
- ユネスコESDユース・コンファレンス



名古屋

11/8～11/13
閣僚級会合、公式・併催イベント

- 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合
- フォローアップ会合
- 公式サイドイベント、併催イベント



■ ESDとは

Education for Sustainable Development 「持続可能な開発のための教育」

環境問題や世界の貧困、食糧、人権、平和、開発など、世界のさまざまな課題は複雑に絡み合っています。環境はもちろん、地域のこと、社会のことを総合的に考えることが必要です。一人ひとりが自分のできることを考え、実践することで、社会のあり方や毎日の暮らし方を変えていく、そのための学びの場を創出し行動する人づくりを目指す学習や活動が「ESD」です。

■ 国連ESDの10年とは

1992年に開催された地球サミットでは、地球温暖化や森林破壊、生物多様性など人類共通の課題を解決するために、環境保全と開発を両立させる「持続可能な開発」が必要であることが確認され、環境と開発に関する国際的な27の原則を盛り込んだ「リオ宣言」、具体的な行動計画を盛り込んだ「アジェンダ21」が採択されました。

この10年後、2002年に開催されたヨハネスブルグサミット（持続可能な開発に関する世界首脳会議）で、日本のNGOと政府が共同して、持続可能な社会を実現するために世界中で人づくりに取り組むことを提案しました。これを受けて国連総会は2005年から2014年を「国連ESDの10年」と定め、世界各地でESD活動が推進されてきました。

■ 世界中から参加

名古屋で開催されたESDに関するユネスコ世界会議には、148か国から74名の閣僚級、ユネスコ加盟国の政府代表、NGO、研究者、企業、国連機関、専門家、若者など1,000人以上の参加者が集まりました。3日間の日程で4つの全体会合や34のワークショップ、25のサイドイベントなどが開かれ、ユネスコが主導してきた「国連ESDの10年」の成果が検証されました。





■ あいち・なごや宣言

11月12日、閉会全体会合では国連ESDの10年の取組を総括し、引き続きESDを促進するための行動を求める「あいち・なごや宣言」が採択されました。この宣言は、10年間の成果や本会議、前週に開催された岡山でのステークホルダー会合での審議を踏まえて、16項目にわたり今後の方針を掲げています。ESDの重要性を改めて指摘し、ユネスコ加盟国と全てのステークホルダーへの行動を呼びかけています。
※あいち・なごや宣言の全文は下記サイトでご覧いただけます。



<https://www.esd-jpnatcom.jp/index.html> (ESDポータルサイト)

■ 「国連ESDの10年」後継プログラム

「グローバル・アクション・プログラム (GAP)」

2013年11月に第37回ユネスコ総会において、2015年以降の具体的な取り組みを推進する枠組みとして「グローバル・アクション・プログラム (GAP)」が採択されました。名古屋で開催されたESDに関するユネスコ世界会議では、ステークホルダー主導の取組に焦点を当て、ESDの規模拡大と具体的な目に見える貢献を目指して、GAPに継続して取り組むことが確認され、公式に発表されました。

◆ グローバル・アクション・プログラム (GAP) とは

ESDの取組の推進・拡大を目指すもので、2015年以降のESD推進に大きく貢献するものと期待されています。

◆ GAP 2つの目的

- ・ 全ての人々が知識、技能、価値観、態度を得る機会を持つために、教育・学習を再方向づけし、持続可能な開発に貢献し、実際に成果を上げるよう能力向上すること。
- ・ 持続可能な開発を促進する全ての関連アジェンダ・プログラム・活動において、教育・学習の役割を強化すること。

◆ GAP 5つの優先行動分野

1. 政策的支援
2. 教育・トレーニングの場に持続可能性の概念を取り入れる (機関包括型アプローチ)
3. 教員やトレーナーの能力向上
4. ユースの役割支援と動員
5. 地域コミュニティや地方政府にコミュニティ・レベルのESDプログラム策定を推奨

出典

持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議
<http://www.unesco.org/new/jp/unesco-world-conference-on-esd-2014/>

日本ユネスコ国内委員会
<http://www.mext.go.jp/unesco/>



ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ
(マイバッグなど)

1 編んだもんだら

オリジナルデザインの「編んだもんだら」は、南三陸町の寄木仮設住宅、中瀬町仮設住宅、登米市南方仮設住宅、気仙沼大島の4拠点30名で制作しています。新鮮でキュートなエコたわしをお届けいたします!

問い合わせ先: 有限会社コンテナおおあみ
宮城県登米市迫町佐沼字大網218-1
TEL: 0220-44-4210 FAX: 0220-44-4202
Email: info@sazahoza.kontena.jp 価格 500円 (税抜)

<http://andamondara.ocnk.net>



2 amaproject

「アマ」はラテン語で「愛する」の意味。金色で編んだ鎖に「情熱」を表す赤と「希望」を表す緑のビーズをつけ、復興への希望を込めたプレスレット。南三陸町の平磯仮設住宅、登米市横山仮設住宅の女性が編んでいます。フランスの女優で歌手のジューン・パーキンが支援してくれています。

手芸デザイン: 横尾香央留
パッケージデザイン: 谷尻誠
ロゴ: アンドレ・サレバア
問い合わせ先: 有限会社コンテナおおあみ
宮城県登米市迫町佐沼字大網218-1
TEL: 0220-44-4210
FAX: 0220-44-4202
Email: info@amaproject.jp
価格 ゴールド3,000円 シルバー2,000円 オム2,000円 (全て税抜)

<http://www.amaproject.jp>



3 おおちゃん・こづちちゃん人形

おおちゃん人形は、大槌町のご当地キャラクター「おおちゃん」が復興の祈りを発信するマスコットとなるよう願いをこめて仮設住宅の皆さんの自立に繋がるささやかな収入源として創作しました。

また、大槌町内の「小鎧」の地名にちなんだ新たなパートナーの「こづちちゃん」を考案し、復興・開縁のシンボルとして売り出しました。

おおちゃん・こづちちゃん共にお年寄りから子供にまで癒し系のアイドル人形として大人気です。
問い合わせ先: NPO法人まちづくり・ぐるっとおおつち
〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小鎧27-41-4
TEL: 0193-55-5221
FAX: 0193-55-5221
Email: gurutto.otsuchi@gmail.com
価格 (大) 各500円 (小) 各400円

<http://www.guruttootsuchi.org/>



4 キラ・ウエア パウスカート

東日本大震災で津波の被害に遭った宮城・岩手・福島縫製工場や工房が、東北の雇用促進を目指して立ち上げたハワイブランド「キラ・ウエア」。フラダンスのスカート「パウ」は、本場ハワイの生地を使って1枚ずつ丁寧に縫っています。その他、東北のお母さん達が編んだシュシュや可愛いバッグ、iPhoneケース、チャリティーTシャツなどもネットで販売中。団体衣装の縫製も承っています。

問い合わせ先: キラ・ウエア (一般社団法人東北マハロファクトリー)
TEL: 050-3735-5549
FAX: 050-3730-3372
Email: kilawear@m.jcnnet.jp 価格 7,600円 (税・送料込み)

<http://kilawear.com/>



再生可能エネルギーの普及促進と環境教育

～地球温暖化防止の為にアセットの出来る事～

世界で起きている温暖化を原因とする異常気象、温暖化防止の為に我々は地道で且つ微力ながら活動しています。

私共、特定非営利活動法人アセットは再生可能エネルギーの普及促進を主目的に、平成21年10月に設立されました。設立以来、目的達成のために以下の活動を一貫して実施して参りました。

1. 再生可能エネルギーに関する数多くの展示会の開催。太陽光パネルや風力発電機、ヒートポンプ等の実物や模型を展示・説明をし、実物を目の前にした説明に市民の疑問の解消や理解に役立ちました。

2. 再生可能エネルギーに関する数多くのセミナーの開催。特に太陽光発電に関するセミナーは、補助金や投資回収期間等の興味深い内容に多くの参加者を得、熱心な質問を受けました。青森県は太陽光発電設備設置率が全国下位であり、セミナーや展示会を通じて

県民の太陽光発電設備に対する誤解や誤った知識の払拭に役立ち、発電設備普及に貢献したものと自負しております。

3. 太陽光パネルや電気自動車を持ち込み、パネルに触れたり車に試乗をしてみる。また色々な実験を一緒にする事により、子供達の興味を引き出す当会独自の「環境出前講座」は児童・生徒に大変人気が高く、設立以来延べ約60校、参加児童生徒は2,500人以上にのぼり、子供達の環境に対する意識の醸成に大きく貢献しております。子供達から家族が受ける省エネ・エコの影響は、家族ぐるみの省エネ・エコと姿を変えており、その効果は大きいものがあります。現在も当会の「環境出前講座」を受講して下さる学校を広く募集しております。

東北6県 青森 EPOトピックス

特定非営利活動法人アセット

- 〒036-8045 青森県弘前市野田1丁目9-9
- TEL: 0172-88-8676
- FAX: 0172-88-8678
- Email: information@npo-asett.jp
- HP: http://npo-asett.jp

4. 私共は、青森県内ではいち早く一般家庭太陽光発電設備から生み出される環境価値を、証書化し販売する「グリーン電力証書」制度を事業として取り上げ、地域の太陽光発電設備普及に貢献しております。環境価値の地産地消をめざし、発電設備者登録者と証書購入者（企業）の募集をしております。



地域の自然と文化を活用した持続的な取り組み「番屋エコツーリズム」

自然と調和して営まれた「漁村の暮らし」が体験素材に

岩手県沿岸北部の田野畑村には、高さ200mの断崖景勝地「北山崎」がありますが、残念ながら以前は典型的な通過型観光地でした。そこで、滞在時間を延ばし経済効果を上げるために、田野畑村では体験型観光を推進しました。体験のメニューには村民の自然と調和した暮らしの営みをそのまま使い、各体験活動は村民がインストラクターとなり交流しながら村の自然や暮らしを伝えるもので、具体的には次のようなプログラムがあります。

- ・ サッパ船アドベンチャーズ⇒漁師が漁船で、荒海と断崖を案内する。
- ・ 番屋ガイド⇒昭和初期より残る机浜番屋群（番屋＝漁師の納屋）を漁師ガイドが案内する。

・ 番屋料理⇒漁家のお母さんの指導で魚をさばき、一緒に食事をする。この取り組みにより、自然や文化を守りながら持続的に観光事業を展開し、また収入を村民ガイドに還元するしくみができました。利用者は順調にのびていましたが、平成23年の東日本大震災で田野畑村は25mの津波に襲われ、甚大な被害を受けました。観光事業は休止を余儀なくされましたが、幸い体験観光に関わる人材は無事でした。

震災から4か月後の7月、なんとかサッパ船を再開し、同時に新プログラム「津波語り部」を開始しました。津波の風化を防止しながら観光客を呼び込み、観光地の復興につながる取組は、三陸広域に波及しました。

東北6県 岩手 EPOトピックス

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク

- 〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村 机浜番屋群ふれあい番屋
- TEL: 0194-37-1211
- FAX: 0194-33-3355
- Email: taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
- HP: http://www.tanohata-taiken.jp/

震災から3年半が経過したこの冬、流失した番屋群も再建されました。現在、番屋での体験受入再開に向けて、体制を再構築しています。復興にむかって、また自然や文化を未来に継承する仕組み作りにむけて、道を探しています。



亜種ヒシクイ、シジュウカラガン等の 越冬地化女沼とエコパル化女沼の活動

自然環境保全活動への取り組みと自然環境を学ぶためのイベント「里地里山探検隊」の取り組み

化女沼は、日本有数の渡り鳥の生息地で、日本に飛来する大多数の亜種ヒシクイやシジュウカラガンが越冬するラムサール登録地になっています。

化女沼及びその周辺は、大変自然環境に恵まれたところで、植物ではミクリやオオトリゲモなどの水生植物や太平洋側を北限とするフモトシダやハカタシダも見られ700種以上の植物が確認されています。また、様々なチョウやトンボなどの種類も豊富です。

NPO法人エコパル化女沼は、素晴らしい自然環境を保全しながら、環境と人間が一体となった豊かな地域社会の実現に寄与することを目的として、平成21年に設立しました。

●化女沼及びその周辺の生物相調査・研究・保全事業

現在行っている活動として ①化女沼特定外来生物調査及び駆除活動 ②化女沼周辺植生・植相調査 ③埋没種子発芽実験 ④鳥類調査などを行っています。

●化女沼と周辺水田を活用した環境教育事業

自然環境を学ぶためのイベントとして年9回の「里地里山探検隊」を実施しています。①身近に見られる山菜を食べよう ②化女沼の外来魚撲滅作戦 ③ホテルの観察会 ④昆虫採集と標本作り ⑤ヒシ・ハスの実の採集、化沼周辺の藨草について ⑥木の実・きのこ採集 ⑦ガン

東北6県 宮城 EPOトピックス

特定非営利活動法人エコパル化女沼

- 〒989-6252 宮城県大崎市古川小野字遠沢2-2
- TEL：0229-28-1353
- FAX：0229-28-1353
- Email：ecopal@snow.ocn.ne.jp

類の観察（田んぼでの観察）⑧ガン類の観察（ねぐら入り観察）その他にもいろいろな活動をしています。



宝の森林(やま)を生かして ～二ツ井宝の森林(やま)プロジェクト

■植林記念碑

～地域に息づく森林(やま)への想い



昭和53年建立

左が藤田孝一代表 右が藤田定事務局長

能代市の北東に位置する梅内地区(旧二ツ井町)は、戸数165戸、森林面積は集落林400ha、個人有林800ha。明治以降分収林を地域住民総出で手入れをしてきたことが、植林記念碑に謳われており、住民の森林(やま)への想いは非常に強い。

生が平成23年度に能代市役所に在職中、間伐などで出る林地残材をバイオマス発電所などに出荷する、木の駅プロジェクトが全国で行われていることを知り、この取り組みを梅内地区に打診したところ、とんとん拍子に話が決まり(平成24年3月プロジェクト結成、名称は二ツ井地域全域に広めたい願いを込めた)、一昨年は60トンほどの出荷実績があった。昨年、今年は東北電力能代火力発電所(石炭)に混焼チップ材として供給するため、「軽トラとチェーンソーで晩酌代を」を合言葉に、取り組みを行っている。

■「軽トラとチェーンソーで晩酌代を」～木の駅プロジェクトに学ぶ

今現在林道と林業専用道が2カ所で工事中である。土地の無償提供が工事採択の前提条件のため、他地区ではこれがネックとなっているが、ここでは住民の理解が進んでいる。小

■宝の森林(やま)を生かす～先人の努力に感謝して

拡大造林期に大量に植えられた杉林の手入れが、今各地で課題となっている。当地区でも例外ではないが、今年は9月から個人からの委託を受け70アールの杉林を間伐、チップ材として

東北6県 秋田 EPOトピックス

二ツ井宝の森林(やま)プロジェクト

- TEL：090-7077-6492(船山)
- FAX：0185-58-2666
- Email：hutatsui@kinoeki.org

※全国の木の駅プロジェクトの取り組みはポータルサイト(<http://kinoeki.org/>)でご覧になれます

55トンほど出材した。

また、10月には梅内聚落(自治組織)と連携し、集落の雑木林の



手入れを地域の方々に呼びかけたところ、30名程の方々が応募し「梅内薪づくり倶楽部」を結成し活動している。今後は薪の宅配も検討したいと考えている。「宝の森林(やま)」とネーミングに込めた想いを一つ一つ実践しながら、先人が育んだ森林をしっかりと後世に受け渡していきたい。今後も地域通貨(木の駅プロジェクトでは出荷者に現金でなく地域の商店で使える券を交付)を有効に活用し、飲みみにケーションもおおいに図っていきたい。



やまがた自然エネルギーネットワーク

地域の財産(資源) 使って暮らしのエネルギーを地域の力で!

3.11 の直後、エネルギーシフトヤマガタという団体を立ち上げ、再生可能な山形の資源を使い、原発にも化石燃料にも頼らず、自然エネルギーによる安全な日本を山形から作ろうと活動を重ねて3年が経過しました。

その間、県内各地で様々な自然エネルギーの取り組みが生まれました。

こうした活動をさらに活性化し、広げていくために、会の名称も新たに「やまがた自然エネルギーネットワーク」として再出発することといたしました。

山形で自然エネルギーを使っていくためのセミナーや勉強会を開催するとともに、活動を広げていく仲間も会員として募集しています。



地域主導の再生可能エネルギー事業を応援！ ふくしま再エネ事業ネット

福島県の復興の柱としての再エネ事業は、地域の人が地域の元気につなげたいとして事業を行う、地域主導の再エネ事業を推進しています。

福島県では復興の柱に再生可能エネルギー(再エネ)の飛躍的推進を掲げています。ふくしま再生可能エネルギー事業ネット(ふくしま再エネ事業ネット)は福島県と環境省の業務を受託し、地域の資源である再エネを地域が主体となり、地域のために活かす地域主導の再エネ事業を推進するネットワークです。NPO法人超学際的研究機構が事務局を運営し、県内の7つの地域に拠点を置く再エネ地域コーディネーターと連携し、再エネの支援を行っています。

ふくしま再エネ事業ネットは個人、団体、各地域の企業・大学・行政から成り、現在も広く会員を募集しています。平成26年12月8日時点で会員数は合計125(個人で47人、団体

78)です。活動実績は、再エネに関する情報提供と地域の活動の情報発信、平成25年度は太陽光発電のセミナーを3回実施し、地域の団体と太陽光発電の事業化の検討を行いました。平成26年度は太陽光発電、木質バイオマスの利用、再エネ事業に関するセミナーを開催し、REIFふくしま2014(ふくしま復興・再エネ産業フェア)にも出展しました。

写真は福島県内で地域主導で建設された発電所を会員や一般の方と共に見学している様子です。

ふくしま再エネ事業ネットでは、各地域の団体とゆるやかなネットワークをつくり、事業化の検討、意見交換、現地視察、専門家を招いてセミナーや勉強会などを行っています。一方、再

東北6県 山形 EPOトピックス

やまがた自然エネルギーネットワーク

- 東根市大字羽入2115-4 (株)シオン内
- TEL : 0237-48-2297
- HP : <http://yamaene.net/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/yamaenenet>

私たちが大切にしている点：

- ・ 県内各地の気候風土を活かした自然エネルギーの利用
- ・ 電気と熱、両面からの自然エネルギーの利用
- ・ 自然エネルギーに関する客観的で親しみやすい情報の提供
- ・ 地域が主体になった自然エネルギーの利用
- ・ 地域経済に結び付く自然エネルギーの利用

山形の自然エネルギーでエネルギー自給率100%をめざし、子どもたちに誇れる、安心して暮らせる新しい山形の未来を一緒に作っていきませんか!

東北6県 福島 EPOトピックス

ふくしま再生可能エネルギー事業ネット (NPO法人超学際的研究機構内)

- 〒960-8043 福島県福島市中町8番2号自治会館7階
- TEL : 024-525-8891
- FAX : 024-523-4567
- Email : info@chogakusai.ecnet.jp
- HP : <http://www.fre-net.go.jp/>

エネ総合相談も受け付けており、一般の方からの質問や相談にも対応しています。今後も皆さまの支えになるような活動をしていきたいと考えています。



* EPO 東北オフィス利用案内

EPO東北のミーティングルームのご案内

- 環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。事務局までご相談ください。
- 開館日/月～金
- 利用時間/ 10:00～18:00
- 利用人数/ 12名まで ※事務所移転に伴い、利用人数が変更となりました

◆ イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。お気軽にお立ち寄りください。チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。



* Web-Siteのご案内

リニューアルしました。掲載情報の充実化を目指しております。

- ◆ お役立ち情報：環境助成金情報、エコの一日覧
- ◆ 随時更新：お知らせ、活動報告、日記

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。

メールマガジン登録者募集中!!

発行：第2週と第4週の毎月2回

登録：無料

内容：環境助成金情報、環境イベント情報、EPO東北の活動情報や環境にまつわるお知らせ

登録方法：EPO東北のWEBサイトよりご登録いただけます。

* EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
ECOリパブリック白神	http://shirakamifund.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
あきた地球環境会議	http://www.cceakita.org/
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

環境イベント告知を掲載します

環境イベントを企画している皆さま、ぜひEPO東北事務局まで情報をお寄せください。ご提供いただいた催事情報はEPO東北のホームページ、メールマガジン等でご紹介させていただきます。

また、チラシを持参・ご郵送いただいた場合はEPO東北オフィスに設置いたします。

EPO東北は東北地方環境事務所(環境省)と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



※2014年6月に事務所が移転しました。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F

TEL: 022-290-7179 FAX: 022-290-7181

E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: http://www.epo-tohoku.jp

勤務時間：月曜日～金曜日【9:30～18:00】

休 日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行日：2015年1月